

産建文教常任委員会

山の再生に向けて取り組みを新たに

12月9日に委員会が開催され、「白鷹町森林整備計画の見直し」について説明を受けた。

国、県の取り組みに
合わせ、町の森林整備
計画を見直し

新たな計画期間

平成29年4月1日～
平成39年3月31日

(10年計画)

計画の主な変更点

- ◇豪雨災害を受けて、森林整備の現状と課題を見直し
- ◇伐採と再造林に関する見直し
- ◇森林資源に合わせて施業共同化の重点区域を見直し
- ◇路網整備に関する山の傾斜区分の変更
- ◇作業条件に応じた作業システムの事項を追加

質疑

各地区への啓発は

委員 重点区域以外の地区が、早期に整備を始めるための啓発は。

当局 まず、財産区と民有林の境界確認から始めて、地域の協力を得ながら、森林整備に対する機運を盛り上げていきたい。

林業者が少ないが

委員 林業従事者が少ない中でどのように計画を進めていくのか。

当局 経営計画に基づき整備にあわせて、自伐型の林業も各地で進めていただきながら、林業振興を進めていく。



出荷を待つスギ苗畑

観光協会 体制の強化をはかる

今後の観光の取り組みについて説明を受けた。

観光交流の推進、
課題と改善策は

現状での課題

- ◇関係団体の連携不足
- ◇他団体との併設事務所による窓口機能の低下

改善策

- ◇関係団体の情報交換の場をつくる
- ◇単独事務所にして観光窓口を一つにする
- ◇他団体との人事交流や自主事業を充実

質疑

荒砥駅の活用は

委員 単独事務所は必要。荒砥駅を活用できないか。

当局 山形鉄道の経営体系も変わり、荒砥駅の活用も検討していく。

「若者」との交流は

委員 中学、高校生との意見交換の場があっても良いのではないか。

当局 若い新たな柔軟な発想は大切にしていくべきで、やる気にもつながると思う。機会を設けることができないか検討したい。



白鷹観光の玄関口（荒砥駅）

- その他
- 新入学児童ランドセル贈呈事業
 - 白鷹町生涯学習振興計画の策定
 - 「日本の紅（あか）をつくる町」連携推進事業
 - 買い物環境調査事業
 - ヤナ場改修計画調査事業について説明があった。